

【ようこそ！特別名勝二条城二之丸庭園の夜間特別公開へ】

「特別名勝二条城二之丸庭園」と「国宝二条城二之丸御殿」は、江戸時代の城の庭園と建物が一体としてのこる唯一のものです。特別名勝と国宝は同格ですので、二条城二之丸の庭園と御殿は合わせて二重の最高評価を受けていることになります。

文化庁（国）が指定する名勝（我が国にとって芸術上又は鑑賞上価値の高いもの）は、令和元年7月1日現在で415件です。特別名勝は、その1割にも満たない36件と希少性が際立ちます。実際、複数の特別名勝がある市町村もしくは東京都特別区は以下の3市区しかありません。

東京都文京区／2件（特別史跡特別名勝小石川後樂園，特別名勝六義園）

奈良県奈良市／2件（特別史跡特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園，
特別名勝平城宮東院庭園）

京都府京都市／12件（省略）

こうしてみると本市の特別名勝の指定件数は群を抜いています。

江戸時代に築かれた城は明治維新後に数多くが取り壊され、さらに第2次世界大戦で空襲の標的となり相当数が焼失しました。全国に400件以上もある江戸時代の城跡のうち庭園が残存する事例は、遺跡を整備したものを除くと、名勝名古屋城二ノ丸庭園，特別名勝二条城二之丸庭園，名勝和歌山城西之丸庭園（紅葉溪庭園）そして名勝旧徳島城表御殿庭園の4件だけです。

意外にも歴史小説や映画・ドラマに登場する城の庭園と御殿が両方とも現代に継承されているのは、二条城二之丸の庭園と御殿だけなのです。

この貴重な庭園を夜間公開するに当たっては、照明の設置の際に庭園

の築山や石などが傷まないよう慎重に位置を決め、器具を置く際にも保護の措置をしています。単に築山や石、庭木をきらびやかに照らすのではなく、来訪される皆様の視線が照明を通じて何気なく庭の見所へ導かれるよう、照明の方向を工夫しました。それは、来訪者の歩みにしたがって視界が変わるよう仕向けた、庭の造り手の目論見を汲んでいます。

一例を挙げますと、唐門より二之丸御殿の区画に入場し、左手の庭門より二之丸庭園の敷地に入ると、まず行灯^{あんどん}が並ぶ園路の奥に、大広間と黒書院が並んで見えます。その灯りに導かれて前進すると、奥側に向けての視野が正面の大きな松の大木で遮られるので、視線はおのずと左手へと転じます。すると池中に浮かんだ岩島、石橋、築山上に並んで据えられた景石の繋がりが目に入り、その池面にもみじと桜の枝振りが映り込んでいることに気づきます。石橋の奥に光を差し入れることで築山の連続性が浮かび上がり、奥に別の景色があるという期待感を抱かせます。

続いて歩みを進め、松の大木を通り過ぎると明るさが増して、池中に浮かぶ中島に植わった優雅な枝ぶりの松の姿が際立ってきます。その景を横目に置いて更に先へ行きますと、漆黒の林間の下に二之丸庭園の主景ともいえる滝石組みから流水が滔々^{とうとう}と湧き出る姿を目の当たりにします。滝から流れ出た水面には、大振りな石組みの力強い輪郭がくっきりと映り込んでいます。

もとより庭の見所とは、経験や知識がなければよく分からないものですが、今回の夜間公開では光によって庭の見方をうながすよう試みています。それが成功しているかどうかは、皆様の目で確かめてください。

令和元年7月